

平成30年度 鹿島市立鹿島小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
元気で勉強 仲よく楽しい学校	明日の来るのが待ち遠しい子どもの育成 ①元 気 … 笑顔であいさつ、元気いっぱい活動する子どもの育成 ②勉 強 … 進んで学習に取り組み、課題を解決する子どもの育成 ③仲よし … みんなと仲よくし、お互いを思いやる子どもの育成

達成度

A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価							
① 笑顔で、元気いっぱい活動する子どもの育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・運動習慣の改善や定着化	・養護教諭、栄養教諭と連携し、健康教育、食育を進め、朝食の喫食率90%以上を目指す。 ・運動の楽しさを実感させるとともに、体力向上の意識を育てる。	・毎日の健康観察、時季に応じた健康管理の指導。 ・食育の重要性に関して、子どもたちの意識を高める。 ・体育行事を充実させ、年間を通じた体力向上を進める。 ・各学年でスポーツチャレンジ等に取り組み、運動の楽しさを味わわせ意識の向上を図る。	B	・早寝早起き朝ごはんを毎日の生活の中で指導できた。生活習慣の改善が必要な児童が多数見られ体力作り及び学力向上のために引き続きの指導を心がける。体育行事については、昨年度の反省を生かし、児童がより主体的に運動に親しめるような取り組みを行っていく。	生活習慣や食事については、家庭の協力を得られるように保護者への呼びかけにも努める。体育行事については、今年度の反省を生かし、児童がより主体的に運動に親しめるような取り組みを行っていく。
学校運営	○安全安心な学校	・危機管理意識の高揚 ・事故防止と危険回避能力の育成	・危機管理マニュアルの周知徹底を図る。 ・施設設備や教育活動の安全性のチェックを定期的に実施する。 ・交通事故0をめざす。 ・訓練等を通して、児童に危機回避能力を身に付けさせる。	・避難訓練や交通安全教室を開催し、不審者等への対応など生活指導を強化する。 ・防犯ボランティア、警察署、交通指導員等との連携を強化する。 ・各学期2回の集団下校、毎日学年で下校時刻を揃える。	B	・危機管理意識向上のために、毎月の安全点検等を行い、危険な箇所等があれば、職員会議などで共通理解を図ってきた。 ・大きな事故等は起こっていないが、児童の安全意識には大きな個人差が見られる。 ・毎朝の登校の様子が心配な登校班がある。	・対処療法的ばかりにならないよう、登下校の様子や学校生活の問題点について、をもっと職員全体で把握し、全体で指導していく必要がある。状況把握等のために、地域の協力も得なければならない。

② 進んで学習に取り組み、課題を解決する子どもの育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の 資質向上	・教職員の意識改革 及び職員研修、授 業研究の充実	・研究授業を全学年1回以上行い、授業力を 向上させる。 ・学年及び学年グループの交流を促進し、 職員同士が刺激し合う環境作りをする。	・国語の授業研究会では講師を招聘し、授業論、指導方法、指 導技術等の指導力を向上させる。 ・全学級、学年が研究授業を実施し、事前、事後の研究会にお いて互いの指導法を交流し合いながら、指導理論を研究し指導 力を向上させる。	B	・授業研究会は、全員が計画通り行うこと ができた。また、事前事後の研究会におい ても、各学年グループを中心に、全校で授 業研究を進めることができた。しかし、指導 力・授業技術の向上には課題が残る。	・講師を招聘しての授業研究会だ けではなく、指導力や授業技術が 向上するような具体的な事例を聞 く機会や校内研修の在り方を考え る必要がある。
教育活動	●学力の向 上	・基礎的、基本的学 力の育成 ・国語科や算数科に おける指導方法の 改善による思考力・ 表現力の向上 ・家庭学習、自主学 習の充実	・国や県の学習状況調査で県平均を上回 る。 ・国語科において書く活動を高める授業づ くりにも努め、それを他教科にも広げる。 ・家庭学習や自主学習は学年目標を設定 し達成する。	・TTを核とし、児童を主体においた楽しく分かる授業を工夫す る。 ・朝の「かくぞう・やるぞうタイム」や宿題、学期末のフェスタで基 礎的事項の定着を図る。 ・校内研修で指導力の向上を目指す。 ・全校共通の学習規律を確立させ学習環境を整える。 ・国語や算数で「自力解決力」「表現するためのかく力」を育成す る指導を行う。 ・便りで家庭への啓発を行い、アンケート調査の結果を指導法改 善に役立てる。	B	・4年生は4教科とも県平均を上回った。5 年生は国語科の「書く力」に落ち込みが あった。6年生は4教科とも落ち込みが見 られ、特に算数科が大きく下回っている。 ・朝の「かくぞう・やるぞうタイム」や学期末 フェスタの実施で基礎的事項の定着を図っ てきた。 ・国語科で「自力解決力」「表現するた めのかく力」を育成する授業づくりを工夫す ることができたが、その指導力を他教科に生か すところまでは至っていない。 ・家庭学習や自主学習の学年目標を設定 したが、便りなどの家庭への啓発を行うこ とで学習環境を整えることはできたが、全 校共通の学習規律を徹底することはできな かった。	・国語科で「自力解決力」「表現す るためのかく力」を育成する授業 づくりを引き続き工夫するとともに その指導力を他教科に生かす。 ・家庭学習や自主学習の学年目 標を設定するとともに、全校共通 の学習規律を徹底できるように指 導する。
教育活動	○教育の質 の向上に向 けたICT利 活用教育の 実施	・ICT活用教育に ついて教職員のス キルアップ	・ICT機器を活用した授業実践を授業時数 の30％以上にする。 ・授業中にICTを活用して指導する教職員 の能力を高め、ややできるレベルまで高め る。	・校内研修でICT活用についてスキルアップの研修を 実施するとともに、研究授業の中でも積極的にICTを取り入 れた授業を提案する。 ・情報教育推進リーダーを中心に、ICT利活用の研修会に 参加し、得た情報を他の職員に伝達する。	B	・各教室に設置してある電子黒板につい ては、ほとんどの授業で活用できている。 タブレットが設置されているが、調べ学習 等では活用できているものの動画や写真 などのソフトを活用している教員は少 ない。 ・教職員を対象としたプログラム学習の 研修を実施できた。	・タブレット学習を推進するととも に、公開授業などを設けて、教職員 が積極的に利活用できるようにす る。 ・ICT活用についてのスキルアップ 研修を、もっと早い時期に計画 をし、ICTサポート員との連携を図 りながら、夏季休業中には実施し たい。
教育活動	○読書指導	・やさしい心を育て るための家庭読書・ 読書習慣の形成	・年間読書冊数を下学年100冊以上、上 学年80冊以上にする。また、50冊以下を 15％以下にする。 ・家族での読書を推進する。	・朝の読書タイムを充実させる。 ・読み聞かせボランティア「はばたきの会」と職員で連携し、朝の 読み聞かせを実施する。 ・本とブックバッグ、読書ノートを準備し、1～3年生の家庭でファミ リー読書に取り組んでもらう。	B	・年間読書冊数は、下学年100冊以上、上 学年80冊以上にすることは、80％以上達 成できた。また、50冊以下を15％にす ることも達成できた。 ・「はばたきの会」と連携し、定期的に読 み聞かせ活動をして頂いた。(年間8回)	・更に児童の読書活動が質及び 量が充実するように推進してい きたい。(年間読書50冊以下の児 童への働きかけ、図書時間の 確保、読書の習慣化への手立て 等)

③ みんなと仲よくし、お互いを思いやる子どもの育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・人に迷惑をかけない心と優しい言葉遣い ・誰にでもあいさつできる人間関係づくり	・生活態度のモデル化を行う。 ・命やいじめについて考える日を設定する。 ・参観日には心・命に関する道徳の授業を行う。 ・人権の花づくりに取り組む。	・自律した生活態度を徹底させる。 ・命・いじめに関する授業を行う。 ・授業参観日には、保護者にも一緒に考えてもらう道徳の授業を年1回は実施する。 ・異学年活動やボランティア活動の実践。 ・あいさつ運動や人権の花づくりを通して、やさしく思いやりのある子どもを目指す。	B	・参観日にふれあい道徳を実施。また平和集会、平和学習、人権集会を通して命やいじめについて考えることができた。各学級で心のめあての取り組みを行い、規律や思いやりの意識化ができた。校内で挨拶を交わす児童も増えてきている。地域での挨拶はまだ不十分で、相手を思いやった言動は十分とはいえない。	・道徳の授業の充実。 ・気になる言動には臨場指導と継続指導を通して思いやりの心を養うように努めている。 ・個人や学級の様子に配慮してお互いが気持ちよく生活できる場作りにも努めるとともに、共通理解の場や研修の機会を設ける。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを見逃さない体制強化 ・「いこちの良い学級づくり」に取り組むことによる教育の推進	・年2回教育相談週間を設定し面談を行う。 ・年2回のQ-Uテストを実施する。 ・講師等を招き、QUテストの分析の仕方や活用方法について学ぶ。 ・年2回心のアンケートを実施する。 ・相談箱を設置する。 ・休み時間の校内巡視 ・毎週月曜日、放課後の職員連絡会で配慮を要する児童について共通理解を図る。	・年間2回の教育相談週間を設定し、児童全員と担任が面談を行い、人間関係の悩みや困っていることを聞き取る。 ・Q-Uテストの結果を分析し、学級集団づくりに生かす。 ・心のアンケートにより児童の困っていることを把握する。 相談箱を設置し、児童の悩みの把握に努める。	B	・年2回心のアンケートを実施し、それをもとにした児童と担任との面談ができた。年1回全職員によるいじめ観察日も設けた。Q-Uテストは本年度は1回実施することができ、それに基づいた職員研修や学級集団作りの取り組みができた。配慮を要する児童について共通理解のもとに指導・支援ができるよう情報交換の場作りにも努めているが、まだ十分とは言えない。	・アンケートや相談箱の設置、相談週間の設定などにより児童一人一人の個性や心情を理解する。 ・児童を取り巻く環境や人間関係にも配慮しながら指導・支援ができるよう、共通理解の場や研修の機会を設ける。
教育活動	○生徒指導	・基本的生活習慣の定着	・進んであいさつができる児童、元気な返事ができる児童、靴やスリッパを揃える児童、後片付けができる児童80%以上をめざす。	・全校朝会での生活の話で、前月の反省をし、実践の意欲付けを行う。 ・あいさつ運動を行い、気持ちの良いあいさつができるような環境を整える。	B	・基本的生活習慣の定着を図り、生活委員を中心に、チェック週間を設けたり、結果を掲示したりして、あいさつ等の向上の意欲喚起を行った。あいさつ・返事について達成率80%を超えているが、トイレのスリッパ並べの指導が徹底できていない。	・トイレ並びについて視覚的に結果を掲示したほか、画像が小さく見えにくかった。写真を大きく掲示したり、実際に上手にできている階に花をつけるなど具体的な指導をした。
教育活動	○特別支援教育	・個に応じた指導・支援の充実	・配慮を要する児童を全職員が把握し、情報を共有しながら指導・支援を行う。 ・配慮を要する子どもについて幼稚園・保育園・中学校と連携会議を年間2回以上開催する。	・校内支援委員会を中心に、連絡会等でも定期的に情報共有の機会を設ける。 ・個別的教育支援計画や指導計画の充実を図る。 ・専門機関の巡回相談を計画的に実施する。 ・スクールカウンセラーとの連携を図る。	B	配慮を要する児童についての情報共有はできた。しかし、具体的支援については、まだ十分共有できていない。引き続き、指導にあたる中で、具体的支援について探り、次年度に引き継いでいく必要がある。	定期的な情報交換の場を設定する。連絡会の活用。 外部機関(巡回相談・医療・福祉・幼稚園や保育園など)との連携

④ 開かれた学校づくりの推進と地域力の活用

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・文書処理の校務サーバーの利活用 ・衛生管理の改善、充実	・アンケートで「文書のデータを校務サーバーに保存・整理することができた」と答える職員を90%以上にする。 ・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5%削減する。	・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・定時退勤日の確実な実施を行う。	C	・校務サーバーの構成はきちんとできていた。デスクトップに保存することに慣れてしまっている職員が多い。サーバーを利用することでデータの共有を図れることやバックアップができることや、情報漏洩の危険性があることなどの理解が不十分である。 ・時間外勤務時間削減の目標達成ができた月は、6か月であった。年平均は昨年度より削減できた。年度当初の時間外勤務が多かった。市教育研究大会があったことと転入の職員が多かったことが、要因と考える。	・年度初めにデータ管理の仕方についての研修の時間を設定する。 ・達成できていないのは一部の職員に限られており、個別に時間外勤務時間の集計表を提示しながら指導をしていく。
学校運営	○開かれた学校づくり	・教育活動等学校の情報を家庭や地域に積極的に提供	・授業参観参加者率70%以上、学級懇談参加者率50%以上を目指す。 ・フリー参観日で地域住民参加者50名以上をめざす。	・フリー参観日を設定し、幼稚園・保育所、老人クラブ等へ呼びかける。 ・地域ボランティアなど地域の人材活用をさらに推進する。 ・学校便り、学級便り、マチコミ等で定期的な発信を行う。	B	・授業参観参加者率の平均は92%と目標値を上回ったが、学級懇談参加者率は平均45.3%と目標値を下回った。地域住民の参加者数もやや少なかった。	・懇談会の参加率を高めるため内容を工夫していく。 ・地域への呼びかけを強化していく。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

・全体的に概ね良好であったが、いくつか不十分な点も見られ、改善していきたい。
・1学期終了後プロジェクトごとに中間評価を行い、実践が不十分なところは重点的に取り組めるよう具体的方策の追加・修正を行い、目標達成を図ってきたい。